施策名：地球規模の諸問題への取組

施策目標：グローバル化の進展に対応したルール作りと地球規模課題の解決に向けて国際社会でリーダーシップを発揮するため、SDGsに係る以下の取組を推進する。

1　人間の安全保障の概念を普及させるとともに、国際社会に存在する人間の生存、生活、尊厳に対する脅威となっているグロ－バルな問題の解決に貢献する。

2　国際機関を通じた支援や条約の策定、締結、実施及び国際会議の開催を通じて保健分野、気候変動問題、地球環境問題等への国際的取組に貢献する。また、防災の主流化を推進し、持続可能な開発を支援する。

過去３年間の取組の主な評価結果

国際社会全体が様々な複合的危機に直面し、SDGs達成に向けた進捗は大きな困難に直面する中、2030年までにSDGs達成を目指すとの大きな方向性に変化はない。人口減少や少子高齢化が進む中、我が国自身の持続可能な発展と繁栄の観点から、（１）SDGs達成に向けた取組を強化・加速し、また、（２）国際社会にさらに貢献していく必要がある。グローバル化の進展に対応したルール作りと地球規模課題の解決に向けて国際社会でリーダーシップを発揮するため、以下の取組を推進した。

- SDGs 達成に向けた取組を加速化することで、人間の安全保障の推進に貢献、国際機関内での人間の安全保障の概念の主流化を図るとともに、「誰の健康も取り残さない」との観点から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に資する取組を進めることができた。
- 地球規模課題は、一国のみでは解決し得ない問題であり、国際社会が一致団結して取り組む必要があり、我が国は、気候変動関連の資金拠出表明及びプラスチック条約交渉への積極的な貢献などを通じて、地球規模課題の取組において主導的な役割を果たすことができた。

評価結果を踏まえた次期施策目標

グローバル化の進展に対応したルール作りと地球規模課題の解決に向けて国際社会でリーダーシップを発揮するため、SDGsに係る以下の取組を推進する。

1　人間の安全保障の概念を普及させるとともに、国際社会に存在する人間の生存、生活、尊厳に対する脅威となっているグロ－バルな問題の解決に貢献する。

2　国際機関を通じた支援や条約の策定、締結、実施及び国際会議の開催を通じて保健分野、気候変動問題、地球環境問題等への国際的取組に貢献する。また、防災の主流化を推進し、持続可能な開発を支援する。

3　人間の安全保障の理念に立脚し、「誰の健康も取り残さない」との観点から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の達成に向けた取組を実施する。

予算額・執行額等	区分	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度
施策の予算額・執行額等（分担金・拠出金除く）	予算の状況	108	95	128	96
	執行額	53	65	77	
同（分担金・拠出金）	予算の状況	133,210	126,036	90,192	17,151
	執行額	132,343	126,023	90,128	

（注）百万円単位。当初予算、補正予算、繰越し等を含む。

外部有識者の所見（概要）

- 施策Ⅵ-1（経済協力への取組）個別分野３も地球規模課題への取組を通じた国際社会の構築なので、施策Ⅵ-2（地球規模の諸問題への取組）に入れてしまった方が分かりやすいのではないか。
- 人間の安全保障と上川大臣主導のWPSは親和性があるのではないか。新たにアクセントをつけるのは良いが、これまでの蓄積の上で統合的に打ち出す余地があるのではないか。
- 本施策の目標２に係る防災の主流化の推進については、日本は東日本・阪神淡路・関東など過去に累次の大震災を経験し、特に東日本大震災・阪神淡路大震災の後は将来の大災害に備えた事前の防災投資やより良い復興（Build Back Better）等の理念に留意しつつ復興を進めると共に、それらの理念と実績も踏まえて日本が策定を主導した仙台防災枠組みが仙台で開催された第3回国連防災世界会議で採択されることにも貢献したなど、日本が世界をリードできる重要な地球規模課題の分野であるという経緯・背景等があるところ、この3年の間では、2023年5月のハイレベル会合での「仙台防災枠組（2015-2030）の中間レビュー」において、2030年までの目標達成に向けた各ステークホルダーの取組加速の必要性を示すことに積極的に貢献する等、国際防災協力の推進に関与したことは評価できる。今後は同枠組みの目標達成に向けた引き続きの取組みが期待される。

（注）評価書を作成するに当たっては、外交青書、外務省ホームページ等を使用した。